

西濃農林事務所の普及活動状況 令和6年1月31日現在

今月の重点活動

■担い手 西濃青年農業士会農業視察研修の開催

1月16日に、海津市南濃町にある株式会社アグリピアにおいて、視察研修を開催した。

株式会社アグリピアは、障害福祉事務所（就労支援B型事業所）とし障がい者の雇用を10年以上前から実践されている。そこで、農福連携の現状や実際の雇用方法、障がい者の今後の雇用における留意点等について情報提供を受け、農福連携から見た農業経営の課題等について、意見交換を行った。

参加者は4名であったものの、講師と活発な意見交換が行なわれ、非常に有意義な研修となった。コロナ禍の影響で、4年ぶりの西濃青年農業士としての研修となったが、農林事務所では、来年度も引きつづき、会員の要望する研修等の支援を行っていききたい。



【視察研修会の様子】

西濃の農業・農村を支える人材育成

■土地利用型作物 土地利用型営農組織の法人化に向けて

輪之内町では、土地利用型農業の担い手である営農組織の法人化へ向けた打ち合わせが活発に行われており、会議には、ぎふアグリチャレンジ支援センター、輪之内町役場、JAにしみの、農林事務所の職員が出席して活動支援を行っている（1月6日：楡俣北部営農組合、1月16日：海松新田営農組合）。

1月16日の海松新田営農組合の会議では、27日に行う予定の臨時総会（設立説明会）の説明内容・資料などを中心に検討した。

農林事務所では、今後も集落営農組織の法人化へ向けて、支援を継続していく。



【法人化会議の様子】

安心で身近な「西濃の食」づくり

■カキ せん定講習会の実施

12月24日にJAにしみの南濃柿部会、12月25日に養老果樹振興会がカキのせん定講習会をそれぞれのモデル園で開催し、約50名が参加した。

農林事務所からは、間伐・せん定について資料説明した後、せん定の実演を行った。実演では、樹のバランスを考えたせん定をすること、主枝の先端は高く強くすること、側枝は長年使わずに更新することを強調した。

令和5年作は小玉傾向であったが、生産者のせん定技術の向上により、次作は大玉になることが期待される。



【講習会の様子（養老）】

西濃農畜産物のブランド展開

■きゅうり 半促成・促成栽培現地巡回及び研究会

JAにしみの海津胡瓜部会は、1月11日に半促成・促成栽培研究会を、JAにしみの海津中支店で開催した。研究会前に部会技術係役員、希望生産者、種苗会社、JAにしみの、農林事務所等関係者では場巡回を行い、9月以降定植の促成栽培及び12月10日から定植が始まった半促成栽培の生育状況について確認した。

促成栽培では、12月は晴天日が多く気温が高いことから、病害の発生も少ない状況であった。半促成栽培は、12月以降の好天で全般に順調な生育となり、例年より数日早い状況である。

研究会では生育や品種特性を踏まえた栽培管理方法について説明が行われた。農林事務所からは気象状況、病虫害対策、GAPに関連した作業場の改善について説明を行った。



【ほ場巡回の様子】

■甘長ピーマン 甘長ピーマンの育苗が始まる

海津地域では、甘長ピーマン等露地・雨よけ野菜に取り組まれており、夏野菜の甘長ピーマンの育苗が始まった。

定植時期は3月中下旬頃からとなっており、育苗には長い期間を要する。近年、育苗済みの苗を購入する生産者が増加しているが、従来通り自家育苗を行う生産者も多い。

育苗期間中は、低温による生育障害やアブラムシ類をはじめとする各種病虫害が発生するため、農林事務所では育苗状況を確認しつつ、甘長ピーマン栽培を支援していく。



【甘長ピーマンの育苗】

■いちご 第49回岐阜県いちご共進会地方審査の実施

西濃地域のいちごは、大垣市・海津市・養老町・輪之内町の生産者50戸で、土耕栽培を主に8.2haが栽培されている。

1月17日および18日に第49回岐阜県いちご共進会の地方審査が実施された。各部会から推薦のあった18名のほ場について、審査長である農林事務所長ら審査員3名で生育状況や管理技術について確認を行った。2月には、県審査および実物審査が行われ、7月に結果が発表される。農林事務所では、上位入賞できるよう栽培技術や管理技術について支援を行っていく。



【地方審査の様子】